

平成22年5月10日

各 位

会 社 名 株式会社マネーパートナーズグループ
 代表者名 代表取締役社長 奥山 泰全
 (コード 8732 大証ヘラクレス)
 問合せ先 取締役CFO 中西 典彦
 (TEL. 03-4540-3804)

平成22年4月次 月次概況（速報）のお知らせ

平成22年4月次の当社グループの月次概況（連結ベース）を下記のとおりお知らせいたします。なお、営業収益及び外国為替取引預り証拠金は速報値であるため、決算発表時の数値と異なる場合があります。

記

年 月	平成 21 年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
営業収益 (単位：百万円)	1,073	1,029	1,064	851	782	874	923	813	656	928	777	697
外国為替取引高 (単位：百万通貨単位)	65,379	65,376	71,623	62,545	57,906	59,165	63,775	58,187	62,076	77,652	70,481	75,109
顧客口座数 (単位：口座)	84,100	88,675	92,763	96,660	99,811	104,065	107,250	110,222	113,275	116,632	119,881	123,278
外国為替取引預り証拠金 (単位：百万円)	25,519	22,605	22,453	23,369	23,798	24,198	24,524	26,124	27,295	25,444	27,331	25,557

年 月	平成 22 年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
営業収益 (単位：百万円)	794	775	860	843								
外国為替取引高 (単位：百万通貨単位)	75,878	71,294	66,193	79,232								
顧客口座数 (単位：口座)	126,746	130,930	133,213	135,141								
外国為替取引預り証拠金 (単位：百万円)	28,234	30,319	26,375	28,316								

- (注) 1. 外国為替取引高は、顧客との相対取引による通貨毎の取引高を原通貨単位のまま合計したものであり、円換算は行っていません。
 2. 顧客口座数及び外国為替取引預り証拠金は、それぞれ月末時点の口座数及び残高であります。
 3. 平成20年5月より代用有価証券の取扱いサービスを開始し、外国為替証拠金取引に使用できる代用有価証券の預り残高が発生しておりますが、現時点では外国為替取引預り証拠金の残高と比べ重要性が小さいため記載を省略しております。
 4. 平成20年6月より外国為替証拠金取引システムのホワイトラベル提供に伴う実績数値が発生しており、当該数値を以下のとおり取り扱っております。

- (1) 営業収益 : ホワイトラベル提供に伴うトレーディング収益を含めて表示しております。なお、当該収益の会計処理は、当社グループ会社をカウンターパーティとする外国為替取引に係るトレーディング収益を営業収益として全額計上した上で、当社グループ会社からホワイトラベル提供先に対して支払うべき外国為替取引に係る手数料を販売費・一般管理費に計上する方法によっております。なお、ホワイトラベル提供に伴うトレーディング収益と当社グループ顧客との外国為替証拠金取引に伴うトレーディング収益を区分することができないためこれらを区分していません。
- (2) 外国為替取引高 : ホワイトラベル提供に伴い発生する当社グループ会社をカバー取引先とする外国為替取引を含めて表示しております。なお、当該取引高は提供先の重要情報に該当するため区分して表示していません。
- (3) 顧客口座数 : ホワイトラベル提供に伴う口座数は含まれていません。

- (4) 外国為替取引預り証拠金：ホワイトラベル提供に伴い発生する当社グループ会社がカバー取引先として受け入れる預り証拠金を含めて表示しております。なお、当該金額は提供先の重要情報に該当するため区分して表示しておりません。
5. 平成21年7月より株式会社大阪証券取引所の開設する取引所外国為替証拠金取引（愛称「大証FX」）のマーケットメイカーとしての業務を開始しており、大証FXにおける取引高及びこれに伴うトレーディング収益はそれぞれ「外国為替取引高」及び「営業収益」に含めて表示しております。

< 4月次の概況 >

4月の外国為替市場は、当社グループの主要な取扱い通貨ペアである米ドル/円は91円台から94円台の狭いレンジでの推移となりました。一方、ギリシャの財政再建問題の影響によりユーロ/円が下落するなど米ドル/円以外の通貨ペアの変動率が高まったことにより、総じて変動率は低調であったものの前月を上回る水準での推移となりました。この結果、外国為替取引高は、前月比約20%増加の79,232百万通貨単位となりましたが、取引高の過半を占める米ドル/円が狭いレンジでの推移となりカバー取引の効率性が低下する等の要因により営業収益は843百万円にとどまりました。顧客基盤については、顧客口座数が前月比1,928口座増加の135,141口座となったほか、外国為替取引預り証拠金は5月の連休に備えての証拠金の積み増し等により前月比1,941百万円増加の28,316百万円となりました。

< 5月6日の外国為替相場急変動について >

5月6日の外国為替市場において、ギリシャの財政再建問題に端を発した信用不安が欧州全体に拡大するとの思惑が強まり、リスク回避目的の円買いが加速したことにより、米ドル/円相場は一時87円台をつけるなど急激な円高が進みました。これに伴う当社グループへの影響は以下のとおりであります。

(1) 外国為替取引システムの稼働状況

急激な円高によって、当社グループの5月6日の取引高は1営業日当たりの取引高としては過去最高となる11,694百万通貨単位となりました。これに伴うシステムへの負荷増大に対して、夜間バッチ処理との競合により入金処理の一部に支障が発生したものの、外国為替取引システム全般は安定的に稼働し、顧客注文処理に支障は生じておりません。

(2) カバー取引の状況

カバー取引については、取引高は増加したものの通常どおり機能しており、特段の問題は生じておりません。

(3) 顧客の状況

急激な円高の進展により、外貨ロングのポジションを保有する顧客に損失が発生しております。しかしながら、今回と同様に急激な円高が進展した平成20年10月6日の為替変動時と比較して、顧客からの預り証拠金の減少幅はおおよそ半分弱の水準であり、5月6日最終の預り証拠金残高は追加入金等もあり27,804百万円となっております。なお、急激な相場変動により、自動ロスカットが正常に機能しポジションが決済された結果、預り資産がマイナスとなった事例が僅かながら発生しておりますが、マイナス金額や件数等を含め当社グループの業績への影響はありません。

(4) 今後の影響について

顧客の損失発生に伴い今後の当社グループの業績への影響が懸念されますが、外国為替市場は変動率の高まっている状況が継続しておりポジティブな要素、ネガティブな要素とも影響を定量的に算定はできません。しかしながら、5月6日の急激な円高による顧客からの預り証拠金の減少は限定的であり、現時点では今後の当社グループの業績への悪影響も限定的であると考えております。

(5) その他

5月7日の外国為替市場は、前日に引き続き変動率の高い状況が継続し、当社グループの取引高は14,636百万円通貨単位と1営業日当たりの取引高の最高記録を更新しておりますが、主要各通貨ペアとも高値・安値の値幅が前日と比べ縮小したこと、取引が比較的分散したことにより取引システムへの負荷が大きくなかったこと、為替相場が円安方向で推移したことにより顧客の損益状況はプラスとなり預り証拠金の額も増加に転じたこと等から、当社グループへのネガティブな影響は生じておりません。

以上